

## 令和5年度（第1回）鳥取市介護保険等推進委員会会議録（概要）

日時：令和5年7月19日（水）9：00～11：00

場所：鳥取市役所本庁舎6階 6-5、6-6会議室

出席者：《委員》

大橋茂樹委員・田中彰委員・竹川俊夫委員・前田由美子委員・能見恵子委員・竹本匡吾委員・多林康子委員・足立誠司委員・目黒道生委員・植木芳美委員・清水真弓委員・本城律恵委員・垣屋稲二良委員・山本雅宏委員・有本喜美男委員・綱本信治委員

（欠席：安住慎太郎委員・橋本京子委員）

《事務局》

長寿社会課

### 1. 開 会

### 2. 福祉部長あいさつ

### 3. 委員紹介

### 4. 正副委員長の選任

委員長：大橋茂樹委員

副委員長：前田由美子委員

### 5. 議 事

#### （1）第9期介護保険事業計画・高齢者福祉計画の策定について

- ①鳥取市介護保険等推進委員会について
- ②委員会開催スケジュールについて
- ③介護保険事業計画と高齢者福祉計画について
- ④介護保険制度に関連する動きについて

#### （委員長）

はい。説明ありがとうございました。①～④について事務局から説明をいただきましたが、委員の皆様から、御質問とか御意見等はございませんか。あれば、はい。

#### （A委員）

8月の22日は確定なんでしょうか。というのは、今年、8月の22日が、今年の人権の市民集会が開かれるんで、多分、そちらのほうに出たりもしないといけないんですけども、8月の22日っていうのは、もう確定ですか。

**(事務局)**

はい、すみません。8月22日は確定ということをお願いしたいと思います。また、欠席される場合は、資料等、後日また会議録等も送らせていただきますので、また御意見等があれば、電話、またはメール、書面等で頂けたらと思います。ちなみに、午前中、また最後でちょっと御案内しようかなと思うんですけど、資料には9時からとは書いてありますけど、9時か9時半で、午前中で終わるように予定しておりますので、よろしく願いいたします。

**(委員長)**

8月22日は、9時からということですか。

**(事務局)**

はい。今のところ、9時と資料には書いてございますけども、今回9時と、開始ということでさせていただいて、次回も9時という形にはさせていただいたんですけども、今回は、この会が終わった後に、地域密着型のサービス部会がある関係がありまして、ちょっと開始時間を早めさせていただいたこともございますので、今回は、9時半開始ぐらいの予定でいかせていただけたらなど、現在考えております。また、皆さんのほうには、近づきましたら、案内のほうはさせていただきたいと思っておりますけども、今のところ、9時半開始ということで、また最後で御案内させていただきますけども、よろしく願いします。

**(委員長)**

はい。ありがとうございました。じゃ、一応9時半からの予定ということで、皆さん予定をしていただけたらと思います。そのほか、御意見とか御質問ありますでしょうか。

**(B委員)**

12ページの生産年齢人口の急減が見込まれて書いてあるんですけども、この、例えば、健康寿命が延びれば、生産年齢人口、労働力、この可能年齢も延びると思うんですよね。これ、実行になったら、見直ししないといけなくなります。今、世の中で行われてる仕事って、大部分は、60歳の人でもできる仕事だと思うんで、生産自体は、機械がやっていますからね。だから、これ、全然、高齢者の定義も、いずれについても見直さなきゃいけない、生産年齢みたいなものね。

**(事務局)**

はい。ありがとうございます。高齢者の定義ですとか、生産年齢人口が何歳から何歳までっていうのは、国で一律に決めてるものなので、国が変えればということでもあるんですけども、確におっしゃられるように、高齢者であっても、まだ現役高齢者は増えてますし、高齢者の方が担えるような社会参加ですとか、ボランティア、就労等も増えてくると思いますので、そこら辺も活用しながら、この2040年に向けて、どう取り組んでいくかということが求められていると考えております。ただ、現在の高齢者ですとか、生産年齢人口という定義で当てはめると、どうしても高齢者は増えてる、生産年齢人口は減っていくというような形になっていると思われまます。よろしく願いします。

**(委員長)**

はい。そのほかございますでしょうか。よろしいですか。はい。

⑤鳥取市の高齢化等の状況について

⑥各種調査の結果について

- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査  
（健康と暮らしの調査）について
- ・介護予防アンケートについて

（委員長）

はい。説明ありがとうございました。⑤と⑥について、事務局から説明を受けましたが、委員の皆様から、御質問とか御意見はございますでしょうか。はい、お願いします。

（C委員）

すみません、これ実態の調査で、2019年にされてる施策が、フレイル対策の施策がどう反映されたかっていうのは、どういうふうに解釈されてるんですか。49ページですかね、健康寿命の延伸というところで、新規事業として、低栄養及び健康状態不明瞭者への対策の取組とか、あと、フレイル予防の啓発、教育の実施っていうのを施策に入れて、第8期は取り組んでおられたと。2019年の結果としては、あまり変わらない感じのイメージで、この施策自体はこう、どういうふうに今後反映されていったかどうかっていう辺りは、どういうふうに解釈されてるんでしょうか。

（事務局）

はい。ありがとうございます。前回の調査と今回の調査ということで、いろんな指標を使って調査させていただいて回答を頂いて、まだ全体をうまく、うちのほうも把握できてはいないところもあるんですけども、やはり感覚といたしまして、やっぱりコロナの影響も若干あるのかなと。よくなった指標もありますし、悪くなった指標もあるということで、健康寿命の延伸というのを1つの目標に掲げて、介護予防の取組を行っているんですけども、どうでしょうかね、感覚としては、取り組んでるよりも、思ったよりはちょっと伸びてないか変わってない、もしくは悪くなっているというようなどころもあるので、ちょっと全部この8期の期間中は、コロナの関係もあって、ちょっと通常の流れとは異なってるのではないかなというところも考えつつ、ただ、まだ、まだまだ取組も足りてないところがあるのではないかなというようなどころも反省点の1つです。前回の調査と今回の調査も、また詳細に分析して、今後また9期に向かって、どういった取組がどれだけ必要なかというようなどころを考えて、例えば目標である健康寿命の延伸といったところは図りたいと、図っていききたいかなと考えております。以上です。

（C委員）

実際に、新規事業自体がコロナで行えてなかったっていうこと、それとも、住民が外出する機会が減ったということですか。それとも事業自体がうまく、コロナで行政的に行えなかったのか、行ってたけど、こういう結果だったのかっていう意味なんですけど。

（事務局）

はい。全くできなく、市の事業も全くできなかったわけではないんですけども、やはり中止になったり、あと、こういった介護予防は、住民さん相手にするものですから、やっぱり地域に出

かけていくのはちょっとこらえてくれと、勘弁してくれというようなことで、中止になったり、延期になったり、回数が減ったりというようなこともありましたので、十分な取組もできてなかったのかなというようなところになります。

また、健康寿命の延伸ですとか介護予防は、市の取組だけでなく、皆さんの日々の生活の状況にもよりますので、そこら辺も、やはりコロナの影響等もあったのかなと考えています。

**(委員長)**

はい。よろしいでしょうか。はい。ほかはございませんか。はい。お願いします。

**(B委員)**

転倒の調査についてですね、段差があって、つまずいて転倒したのか、それとも平面で転倒したのか、そこは区別してあるのか、段差があってだったらフレイルですよ、平面でだったら脳に問題があるとか、その辺区別したほうが分かりやすいかなと、フレイル後のポイントになるので。

**(事務局)**

はい。ありがとうございます。今回のこの調査の転倒したというのに関しましては、ただ転倒したという事実だけを調査させていただいてますので、どういった状況で転んだのかというところまでは、調査の項目には入ってないです。

**(委員長)**

事務局、よろしいですか。

**(事務局)**

はい、大丈夫です。入っておりませんっていうのが、ただ転んだということだけを回答していただいているという形になります。

**(委員長)**

はい。ほかはございますか。はい、どうぞ。

**(D委員)**

ありがとうございます。詳細な調査の結果の報告ありがとうございました。コロナを、私も担当させてもらっていた関係で、このコロナ禍でのフレイルの進行というのは、とても気になっておりまして、詳細な調査で、いろいろ明らかになった点もあるのかなと思って見させていただいたところです。その中で、健康寿命の延伸、そのソーシャル・キャピタルの醸成等、非常に重要だったことが言われ続けているんですけども、その中のニーズ調査の中で、各指標の地域ごとの状況というのが36ページにあって、興味深く見させてもらったんですけども、ソーシャル・キャピタルの中の特定の社会参加のところで得点のいいところ、湖東だったりとか桜ヶ丘であったりとか、全般的に国府であったりっていうことが、非常に得点が高くて、そして、ほかの指標もいいところが多いように見えるんですね。ですので、こういった地域、コロナ禍の、ちょうどまだ真ただ中の調査において、このようなことが出てくるといことは、何かその地域の中での好事例といったものもあるのではないかなというふうに思って見させていただきましたので、そういった鳥取市さんの中でも、好事例というものがあれば、横展開でのことにも、今後つながるのかなと思って聞かせていただきました。

そして、もう一つ興味深かったのが、調査項目に加えていただいたインターネットの利用ということなんですけれども、私もちょうどたまたま緑陰大学で、若宮正子さんの御講演を聴く機会がありまして、その中で、「老いてこそデジタルを」というようなお話をされたんですけども、いわゆる若者たちのSNSの弊害というよりは、高齢者にとってもデジタル化、SNSの活用というのは、いわゆる孤立化を防ぐというところで、ネット上の老人クラブというのも開設されてるそうなんですけれども、いわゆる介護予防の事業の活用というようなことはもちろんなんですけども、もっと広い視点での高齢者の方にとってのネット活用っていうようなことも、今後はあるのかなっていうふうに思いました。どうぞよろしく願いいたします。

#### (E委員)

すみません、私は、この介護予防アンケートのほうでちょっとお伺いなんですけれども、こちらのほう、いわゆるフレイルと、私は社会的孤立っていうところの相関性を非常に気にしてるものなんですけれども、社会参加に関する調査項目を追加してるとかっていうふうなことは書かれてはいるんですけども、多分その辺りが言及なかったんですけども、何かそのフレイルと孤立との相関性というようなところは、データとかで出てますでしょうか。また、そういうのがあったら、ぜひ、私はそのデータを見てみたいので、御提供いただけないかなというところがございます。

#### (事務局)

はい。ありがとうございます。まず最初に、御意見頂きました、地域ごとの状況等につきましては、先ほども説明させていただいたんですけど、やっぱり地区ごと、前回の調査と今回の調査、地区ごとの傾向はあまり変わってないです。やっぱりいい地区は比較的いい、コロナがあった今回の調査でも、いいところは比較的よくて、やっぱり悪いところは、ちょっとやっぱりなかなか改善しないというところもございますので、また、こういったところを見て、鳥取市も市域が広くて、様々な特性がございますので、単純に横展開できればいいんですけども、また各地区に沿ったような取組等が、皆さんに行っていたらなということも考えさせていただいております。

また、インターネットの利用についても、うちも、今後施策を進めていくのに、この施策を考えていくのに、やっぱりどうしてもこのSNSだとかインターネットだとか、デジタルの活用っていうのも考えていかないといけないとは考えております。その中で、どれだけ、じゃあ御利用いただけるのかっていうところが、やっぱり、うちも心配なところで、今回、こういうような調査をさせていただきました。ある一定程度は御利用いただけてるのかなという感覚もありますが、使えない人も当然ございますので、そこら辺も配慮をしながら、何かいい取組ができたらなと考えております。御紹介があったように、確かにオンライン等で通いの場等もあったりとか、デジタルの世界でもいろんな取組が進んでおりますので、使えるものは使わせていただけたらなと考えております。

次のE委員の御質問ですけども、ちょっと今資料として作成させていただいておりませんので、データのほうは。

**(事務局)**

すみません。介護予防アンケートにおいて、コロナ前後で、社会参加の状況がどのように変化したとじていらっしゃるか、それぞれの介護予防教室ですとか、趣味等サークルで、どの程度変化したとじていらっしゃるかっていうのを回答していただく項目を設けております。地区ごとに、こう大きく減っている地区と、逆に増えている地区と、ちょっとばらつきがありまして、集計したものは、ニーズ調査同様にホームページに掲載をさせていただいております。何となくこうフレイルの状況と相関しているのかなと思ってこう見ていたんですけども、必ずしもそうではない、ただ変化したってということと、実際の人数が大きく変わったかっていうのとは、もしかしたら若干違うのかもしれないなですとか、ある特定の集まりに参加しなくなったけれども、アンケートの項目に含まれていない、介護予防アンケートのほうには就労を含めておりませんでしたので、そちらのほうが増えているのかもしれないとか、いろいろちょっと読み解き方がまだあるのかなと思っておりますので、また資料も、ホームページに掲載しているもの以外でも、提供させていただけるものは提供させていただければと思いますので、逆に教えていただければという部分も。

**(E委員)**

すみません、ありがとうございます。ちょっとそこで、私からのお願いになるんですけども、多分、社会参加というよりは、その方の人間関係の問題、例えば家族との関係であったりとか、あるいは、相談できる相手がいるとかいないとかですね、いわゆる社会的孤立を測る指標と、このフレイル等のリンクっていうのが必要だと思うので、その辺りの設問を、また次回以降追加していただけると、特に75歳以上の方ってリアルに出てくる可能性が高いので、しかも、それを地域にフィードバックできる可能性が非常に高くなって、有効な資料になっていくと思うので、この孤立指標とフレイルとをうまく相関させて、分析していただけると、私は非常にうれしいなというふうに思っております。以上です。

**(事務局)**

はい。ありがとうございました。また、参考にさせていただきたいと思っております。

**(委員長)**

はい。ありがとうございました。はい。

**(F委員)**

すみません。計画策定のスケジュールのことに、ちょっと戻ってしまうんですけども、5ページのところなんですけど、これは、介護保険施設における人材確保に関する実態調査となっているんですけど、これは入所施設系という意味なんでしょうか。それとも、在宅サービスも含まれていると思ったらいいでしょうか。

**(事務局)**

はい。今のところ入所の施設になります。

**(F委員)**

そうなんですか。

**(事務局)**

はい。本来でしたら、通所ですとか、幅広くさせていただきたいという思いはあるんですけども、ちょっといろいろ、費用の面ですとかこう考えると、ちょっと今回入所ということで。ただ、気持ちとしては、やはり、全てにおいて調べたいなという気持ちはございます。

**(F委員)**

気になるのが、訪問介護なんですけども、職員の確保が大変だということや、訪問介護のほうに従事したいという人自体が減ってるということとか、また、高齢化してて、もう平均的には60歳の段階に来ているということもあったりするので、その辺りところがもっと調べられるのかなと思って期待したんですけど、分かりました。はい、了解です。

**(E委員)**

はい。度々すみません。今回、これは一応、計画の前段となる課題の抽出というような位置づけになりますよね、今の資料というのは。これ以外にも、その課題の出どころっていうところだと、各包括の、例えば地域ケア会議等で、様々な課題把握をされて、この辺りが、鳥取市として、この社会資源が足りないよとか、こういう政策提言という形で、包括からのほうで課題が出てくることを我々は期待していたと思うんですけども、その辺りは、情報としては今回出ていないのでしょうか。

**(事務局)**

はい。ありがとうございます。E委員が言われるように、地域ケア会議、包括等が行う地域ケア会議、非常に重要ではないかなと考えております。ただ、うちの本市の地域ケア会議の取組ですけども、回数はだんだん増えてきているんですけども、やはり個別ケースを検討する中で、やはり、なかなか地域の課題の抽出というか、個人のケアのほうに目がまだ行ってしまって、そこで、何がその人にとって足りないのかとか、何が社会資源としてあればいいのかとかというところの抽出までには至ってないといったところが現状でございまして、御指摘のように、そこを非常に今後考えて、こう何年も言ってるんですけども、考えていかないといけないと、非常に重要視はさせていただいております。なので、今後も、そういった視点を持ったケア会議になるように、地域包括支援センター等の職員、また参加される方にも、そういった意識づけをまず重要かなと考えているところでございます。

**(委員長)**

ほかはよろしいでしょうか。はい。お願いします。

**(G委員)**

資料21ページ目の、この一人暮らし高齢者世帯数の推移なんですけども、これ、サ高住とかのサービス付高齢者向け住宅とかの方っていうのは、その分母のほうに入ってくるのかどうか、ちょっとそういった基本的な数字の定義を、増やすと、このグラフに入ってくるかとかがあって、基本的なことですけども、お願いします。

**(事務局)**

はい。ありがとうございます。一般世帯ということで、入所の方は入っていないというような形になります。はい、で集計させていただいてます。

**(G委員)**

サ高住の住居だけの、そこはもう含まれないということで、分母はどうでしょうか。なんで、家族さんで、2人で住まわれてる方とか、家族さんで3人で住まわれてる方のお一人がサ高住に入ったときは、そこに世帯数は入れないということでしょうか。そのお子さんと御両親2人で住まれて、お父さん1人がサ高住に入られたら、その方は世帯には入らないということで、これには入ってこないっていいのでしょうか。

**(事務局)**

はい。すみません。ちょっと今調べていますけども、ちょっとその詳細な抽出条件については、ちょっと今すぐ分かりませんので、また御回答させていただけたらと思います。

**(委員長)**

はい。ありがとうございました。それでグループホームはどうですか。グループホームは在宅ですよ。グループホームも入ってない。また、まとめて回答いただけたらと思いますので。

**(事務局)**

はい。すみません、ありがとうございます。今回抽出したデータは、長寿社会課等で、国で使われてる、見える化システムを使ってデータを取得しております。その出典が、国勢調査等の基になっているようですので、ちょっとそこら辺を調べて、どういう抽出方法なのかというのは、また御回答をさせていただけたらと思います。

**(委員長)**

はい。ありがとうございました。たくさん意見が出ましたけど、よろしいですかね。

ちょっと私も1点だけ、ちょっといいでしょうか。介護予防と日常生活圏域ニーズ調査のところで、75市町村との比較が可能ということを言われてまして、3項目ぐらい、65番目とかっていうところでは、全国的にちょっと低いというような話がありましたけど、それは順位で見るとですかね、パーセントで見るとですかね。何かそういう、どれぐらいとかなればというところで決められてるのかどうか。

**(事務局)**

はい。ありがとうございます。基本的には、自治体間の比較ですので、順位で見えています。物によっては、どのぐらい達成できたかなというような数値でも測りたいかなと思ってます。ただ、この75市町村ということですので、全国の市町村数から比べたら、このJAGESの調査に参加している自治体は、まださほど、増えつつはあるんですけど多くないです。なおかつ、結構、このJAGESの調査に参加している自治体っていうのは、比較的こういう取組に熱心な自治体が多いので、鳥取市が、ほかの自治体と比べると、やはり、なかなか頑張っても、ほかの参加の自治体もすごい頑張っておられますので、なかなか順位としては上がらないのかなと。自治体間比較だけでなく、うちの経年の経過も追って行って、市として、数値をよくしていくということも重要ですので、そういったところで、自治体間比較等は考えているところです。

**(委員長)**

はい。ありがとうございました。その中で、9期に向けて検討する内容とかも、これから検討

されるんですよね。はい。ありがとうございます。よろしいですかね、次に行かせてもらいますけど。はい。すみません。

#### ⑦第9期鳥取市介護保険事業計画・高齢者福祉計画策定に向けた課題整理について

#### ⑧計画づくりの考え方について

##### (委員長)

はい。ありがとうございます。⑦と⑧について説明を受けましたが、委員の皆様から、御質問とか御意見ありますか。はい、どうぞ。

##### (F委員)

詳細に御説明いただきまして、ありがとうございます。52ページの0102社会参加の推進というところで、9期に向けて、四角の2番目なんですけども、住民主体によるボランティア（助け合い）活動の推進が必要、そして、その下のほうに、高齢者の就業支援、有償ボランティア等の社会参加への支援が必要というのがあります。そして、54ページに行きまして、0204生活支援サービスの充実ということで、四角のほうに、9期に向けた移動支援（買物支援等）の充実が必要、また、その上に、住民が主体となり地域課題を話し合う場や福祉ネットワークの構築が必要。実際に、いわゆる新市域を中心に、その協議体、社協さんを中心にして、協議体づくりが進んでいるわけなんですけれども、そこでの話し合いをしていく中で、自分たちで住民が、自分たちの地域の課題を解決していこうということを考えていくに当たっては、やはり、そろそろ9期に向けては、先ほどもありました住民主体のボランティアの活動の推進であるとか、有償ボランティアと社会参加の仕組みづくり、そして、自分たちの地域課題である買物困難であるとか、または移動支援の充実等については、何らかの形で、やはりその9期には仕組みづくりを、鳥取市としては、こういうふうな形で、住民の人に、担い手としての役割を持ってほしいというところを示していく必要というのが、そろそろあるんじゃないかなというようなことを感じるんですけど、その辺りのところをどう思っているかということと、それと、あと、9期に向けての考え方についてのビジョン・ロジックが出てきて、大変すばらしいと思います。ぜひとも、この視点で、今後施策を考えていくときには、こういうロジックで、効果もちゃんと検証できるという形で、ここのこういう場で話し合いにも、何となくこう並んだもののベースで話をするんじゃないくて、データでこういう形で効果が得られるんだなというところなんかをお示ししていただけるということは、大変有意義なことだなというふうに理解しております。じゃあ、最初の質問だけ、お答えいただけたらと思います。

##### (事務局)

はい。ありがとうございます。やはり、F委員さん上げていただいたように、地域づくり、地域が、自分たちのことを自分たちで考えというような取組は、非常に重要になってきますし、就労等もそうですけども、本当で、いろんな形があるのではないかなと考えています。今日一言で、何かちょっとさらっと回答するのも難しいんですけども、一つ一つの取組を、一つ一つの地域に合った話し合い等が進んでいくというのが重要じゃないかなと考えていまして、そのためにも、ビ

ジョンの共有みたいな人があったんですけども、じゃあ鳥取市として、どう地域に、どうあってほしいのかといったようなところも、地域の皆さんと共有とまでは言っちゃあ、ちょっとあれなんかもしれないですけど、市はこういう考えなんだよっていうところを、今以上に知っていただきたいなというような思いがございします。回答になってますでしょうか。ちょっとなかなか分かりづらいところではありますけれども。

**(委員長)**

F 委員さん、よろしいですか。

**(F 委員)**

はい。ありがとうございます。

**(委員長)**

はい。ありがとうございました。ほかに質問があるとか、意見がある方はありますか。はい、どうぞ。

**(H 委員)**

9期で、いわゆるロジックモデル等のことが出てるので、ぜひ権利擁護のシステムをこの考え方でまとめてほしい。地域包括支援センターが10か所できて、鳥取市に基幹型ができた。地域の中で、権利擁護が必要な方を見つける、見つけたら、最終的に中央包括につながって、きちんとアセスメントをして、中央包括のリードで何が必要なのかみたいなことが、地域ケア会議を通して話されていく。このようなネットワークの大切さが実感できたと思う。例えば民生委員だとか、あるいは、地域活動をやっている人たちだとか、そういう方と常に支援に係る話ができていけるような、顔が見えるような、情報共有の場をつくっていったら一番いいなという具合に思っています。

だから、こうしたネットワークのあり方が計画の中で見えてくるといいと思います。このロジックモデルって大変分かりやすいので、ケースに関わる地域の方々にも分かりやすい計画にしてほしい。我々も権利擁護の活動もやっていますので、計画作成の時にはぜひ呼んでいただきたい。地域ケア会議において、まだまだ地域課題が絞れないというような話もありましたけれども、できている部分もあると思います。もっと充実できるような取り組みになるよう、包括的な計画を作成してほしいと思います。

**(事務局)**

はい。ありがとうございます。地域包括支援センターも10か所に増えまして、地域密着型ということで、また、市のほうには基幹型の包括も設置しましたので、より各包括が、地域の団体さんであるとか組織ですとか、その他もろもろと連携して、権利擁護でいえば、うまく情報をキャッチするということですか、アウトリーチしていくといったところも重要になってくるかなと思っております。またちょっとそこら辺も考えさせていただきたいと、この9期に向かってですね。どこまで計画のこの本文に落とせるかといったところはありますけれども、先ほども言ったようなロジックモデル等も活用させていただいて、取組を進めさせていただけたらなと思っております。以上です。

**(B委員)**

はい。52ページの社会参加の推進のところ、高齢者の就労支援ですけれども、シルバー人材センターで、高齢者等のことを。私の長男のほう人材派遣会社に入っていて、いろんな話したりするんですけども、そこから鳥取市は、鳥取県のほうに派遣されて、仕事してるみたいで、コロナの10万円給付の仕事なんかもされたりしてましたけれども、このシルバー人材以外の高齢者の雇用状況については、何か調査されてないんですか。

**(事務局)**

はい。うちのほうが直接はしてなくて、経済観光部局のほうに担当部署がございますので、はい、そちらのほうで調査されてると思います。いろんな働き方があると思いますので、うちのほうも、高齢者の就業支援っていうほうも、また経済観光部のほうとも連携して、先ほど言われたようにシルバー人材センターだけに限らず、多様な働き方があるかなと思いますので、そういった支援を行わせていただけたらなと考えているところです。

**(委員長)**

はい。それでは、次に行きますけど、よろしいですかね。はい。

**(2) 協議事項**

**①指定介護予防支援業務の一部を委託する指定居宅介護支援事業所について**

**(委員長)**

はい。ありがとうございました。ただいま説明をしていただきましたが、委員の皆様から、質問、御意見ありますか。よろしいですかね。はい。じゃあ、進行します。

**6. その他**

**(委員長)**

その他ですけど、事務局のほうから何かありますか。

**(事務局)**

はい。すみません。G委員さんから御質問ちょっといただいてた調査の件で、世帯に何が入るのかといったところですけども、ちょっと調べてみましたが、一般世帯で調べてるんですけども、一般世帯が、社会施設の入所者を含まないということになっておりまして、じゃあ、その社会施設って何なんだといったところなんですけども、有料老人ホームですとかサ高住は、社会施設に含むということになっておりますので、サ高住等は一般世帯には含まれてないといったようなところです。グループホームは、そこに上げられておりませんので、ちょっとまだ不確定ですけども、一般世帯に入ってるのではないかなといったところになります。以上です。

それで、その他ということなんですけども、先ほどもありましたけど、次回、一番最初の次第にも書いてあるんですけど、8月22日に行わせていただきたいと思っております。ありましたけど、9時半からにさせていただきたいと思っておりますので、また御案内をお送りさせていただきたいと思っておりますので、皆さん、よろしくお願ひしたいと思っております。事務局からは以上です。

**(委員長)**

はい。それでは、皆様のほうから何かございますか。よろしいでしょうか、はい、どうぞ。

**(B委員)**

ここの委員に施設の方がたくさんおられますから聞きたいんですけども、施設によって、個人情報の捉え方がごっつい違うんですね。もうすぐ敬老の日がありますけども、敬老の日のお祝いで、町内会から、施設に入っている人に持っていくんですけども、これこれ、こういう人がおられますよというところがあれば、いるかどうかは言えませんというところもあるようで。施設に入ってる人はね、その元いた町内会や、市民の人たちから完全に隔離して、それで、そのままその施設にいて、死んでいけたらいいみたいな扱い方のところもあるんじゃないかなと思って、そういうのを、その地域から隔離するっていうのは、高齢者の虐待になるんじゃないですかねと、私は思うんですけど、どうでしょうか。ですから、施設によって、個人情報の考え方が違うんですかね。どうなんでしょうか。

**(委員長)**

ちょっとそこは分かりませんが、そういう問合せがあれば、敬老の記念品とかですよ、その辺は対応させていただいてると思いますけど、ただ、いろんなケースがあって、例えば、家族同士でのいざこざもあつたりとか、中には借金とか、いろんなケースがあるので、むやみには個人情報としてはお伝えしてないのが現状だと思います。はい。ただ、そういったね、町内会からの敬老のお祝いとかっていうことであれば、多分お受けするというか、お渡しするような形にはさせていただいてると思いますけども。はい。よろしいでしょうか。

それでは、議事については、終了とさせていただきます。委員の皆様には、議事の進行に御協力いただきまして、ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

## 7. 閉 会